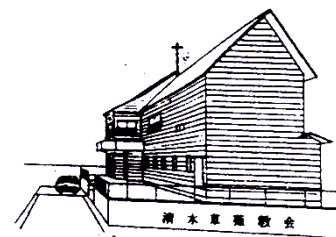


《今朝の聖書から》“エステルの会”では、“出エジプト記”を読み進めてきましたが、ちょっと全体を思い出してみましよう。“創世記1章”では、人々はまだ食べ物として、動物を与えられていませんでした。羊は飼っていましたが、アベルがそうしたように、礼拝の捧げものや、毛皮を衣類にするために飼育していたようです。そののち創世記9：3で、“すべて動くもの”が食物として与えられていることが分かります。人を“地を治める者”として創造された神様は、徐々に、人に管理責任を、より多く求めてゆかれたことが分かります。彼らは土地の所有も、墓地を持つことはしましたが（創世記23：4）、葡萄や小麦を植えるための、畑というものを所有してはいませんでした。約束の地カナンに入るまで、イスラエル人は、土地所有はしませんでした。彼らは寄留民だったのです。しかし、“出エジプト記”や“申命記”には葡萄畑の話がたくさん出てきます。“やがてあなたがたが所有する葡萄畑に関して、なさなければならぬ”と神様は仰っているようです。バベルの塔で失敗するまで、人々は言葉を通訳しなければ、理解できないという苦勞も知りませんでした。“いろいろな言葉を管理して配慮する”ということも知らなかったわけです。人々は一見、豊かな生活に進んでゆく歴史をたどったように見えますが、治めなければならぬことも、大きく広がっていったことが分かります。さて現代も、より大きな“やっかいもの”を背負い込むことになる“進歩”を人々は与えられ続けています。“核エネルギー”や“化石燃料”も同じようなもので、世界を治め、守る責任のある人間に、より大きな倫理・道徳を求めるものになっています。今朝、新しい出来事に人々が直面することについて聖書から学びましよう。この箇所、畑を所有するようになり、産物である穀物を口にした出来事についてみましよう。“これこそ約束の地”と思い進み入った人々は、土地を管理し作物を管理する責任を負うことになったのです。穀物を蓄えるということは、ヨセフのエジプトにおける出来事からも知られていました。大きな力となるのです。しかし、貧富の差にもつながる原因になります。現代に至っては、自然破壊の原因にもなっています。蓄えることのできない“マナ”は、決して一番おいしいものではなかったようですが、多く集めることもできませんでした。大きな喜びは、大きな責任も人々に与えることになるのです。個人的にも社会的にも、管理は委ねられた神様の恵みであることを忘れないようにしましよう。

# 週報

2008年 1月 1日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。  
使徒行伝16：31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステルの会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885  
静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26  
☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)  
牧師 村上定幸